



舞鶴市長
多々見 良三

市長新春の挨拶 ～志のある「まちづくり」を共に～

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、これまで大切にまいりました多くの「連携」の取り組みが大きな成果となって表れるなど、「絆」を感じる一年でありました。

私は、市長に就任して以来、地域の皆様との連携をはじめ、多様な連携の中において「選択と集中、分担と連携」をコンセプトとして、それぞれの特長を最大限に生かしながら相乗効果を高める、足し算ではなく掛け算となるような関係を築くことに重点を置いてまちづくりに取り組んでまいりました。

こうしたまちづくりの取り組みは、公的 4 病院をあたかも一つの病院として機能させる地域医療の再生や、京都府北部 5 市 2 町をあたかも一つの 30 万人都市圏として、観光、教育、医療、交通、産業、移住・定住、雇用など、さまざまな分野において機能させる「連携都市圏構想」などにつながるものであり、こうした考え、取り組みは全国のモデルになると評価され、昨年「マニフェスト大賞」グランプリとして表彰されました。

また、京都舞鶴港を通じて長年にわたり、対岸諸国などとの連携を深めてきたところではありますが、中国・大連市との長年にわたる友好都市交流の取り組みは、中国において高く評価され、「対中友好都市交流協力賞」として表彰いただきました。ロシア・ナホトカ市とは、姉妹都市提携 55 周年という節目を契機として、両市相互の地域経済の活性化に向けた「京都舞鶴港」の活用をはじめ、これまでの絆を一層深めていくことを確認いたしました。さらには、引き揚げの史実を通じたご縁から深めておりますウズベキスタン共和国との交流は、昨年 6 月に 2020 年東京オリンピック・パラリンピックにおけるホストタウンに登録されたところであり、今後、文化・スポーツ・経済などさまざまな面で交流し、「オリンピック

レガシー」として残るつながりを築いてまいりたいと考えているところであります。

これらは、先人先達が、長年にわたり紡いでこられた友好の絆、引き揚げの史実を引き継いでこられた賜であり、今を生きる我々がしっかりと次の世代へとつないでいかなければならないと考えております。

京都府北部 5 市 2 町の広域連携による北陸新幹線京都府北部ルート誘致の活動は、京都府全体の活性化につながる取り組みとして、また、「国防」「海の安全」「エネルギー」など、国の重要拠点が所在する地域を高速で結び、北陸から近畿、山陰にかけて、太平洋側と同等の強固な日本海側の国土軸をつくる我が国の未来につながる取り組みとして、京都府内はもちろんのこと、兵庫、鳥取、島根、山口各県などにおいて、広くご理解いただき、支援の輪を広げ、連携・協力の絆を深めております。

私は、地域一丸となったまちづくりの推進をはじめ、広く連携の取り組みを展開していくためには、「こうなれば良い」という漠然とした思いではなく、取り組みを通じて、まちを少しでも良くしたいという強い「志（こころざし）」を持ち、取り組みの重要性、必要性を明確に伝え、共感いただき、共に取り組もうという思いを集め広げていくことが、最も重要であると考えております。

誰かのために、地域のために、そうした「志」のあるまちづくりに、今後とも全力を挙げて取り組んでまいりますので、引き続きご理解ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさついたします。